

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	○基礎学習の時間の確保や指導内容の特性に合わせた工夫により基礎学力の定着を目指すとともに、活用力を高めることで深い学びにつなげる。	中 間 評 価	○「めあて」「手順」を明確にした授業改善を図り「自分で考える」「読み取る」時間を確保した深い学びをさらに推進させる。	最 終 評 価	○国語においては書くことや読むことについて特に課題がみられる。I C Tを効果的に活用する等、児童の学ぶ意欲を高めるとともに理解を深めるために授業改善を図る必要がある。算数においては基礎的・基本的な学力の定着が見られる。一方、活用する力については課題があることから、自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えを活かしたり等、対話的な学びを充実する必要がある。
環境づくり		○視覚的に理解しやすい掲示や学習規律を全校で共有して、様々な背景をもつ児童も学びやすい学習環境を整えていく。		○全校統一した教室環境づくりは推進できている。 さらに、様々な背景をもつ児童が学びやすい学習環境を視点に改善をすすめる。		○ユニバーサルデザイン化に取り組み児童が落ち着いて学習に向かう教室環境を整えることができた。児童の学習意欲を高めたり学習の振り返りを実感したりできる等学習環境を整える必要がある。

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語	学音読をする機会を多く設けたため、簡単な文章を正しく読むことができるようになった。 学平仮名を書く活動を多く取り入れたため、9 割近くの児童が正しく書けるようになった。	・句読点や助詞を正しく使うことに課題がある児童が多い。視写や作文を通して、文章を書く機会を多く設ける必要がある。 ・新出漢字及びカタカナの書き順や字形を正しく覚えていない児童が半数近くいる。	・視写する時間を設けたり、週に一時間、日記を書く時間を設けたりすることで、文章を書く力を伸ばす。 ・反復練習を行う他、小テストを導入することで、新出漢字やカタカナの確実な定着を図る。	学音読や視写、日記を継続して取り組んだことで、句読点や助詞が正しく使えるようになった児童が増えた。 学漢字やカタカナの小テストを実施したことで、繰り返し練習することができた。ドリル型の活動を多く行ったことで学習内容の定着につながったが、個人差の開きも大きくなった。個別指導や個別の主題を設け、個人差に対応していく。	
	算数	学繰り上がりや下がりのない一桁の計算はほぼ全員の児童が暗算でできる。繰り上がりや下がりのない計算もさくらんぼ算を用いて 8 割近くの児童が正しく計算できるようになった。	・文章問題から題意を正しく理解し、立式することが困難である児童が 4 割程度いる。	・文章問題に多く取り組ませ、ポイントとなる「あわせていくつ」「残りはいくつ」といった言葉やキーワードに着目しながら立式をする習慣を身に付けさせる。また、加法や減法の場面を具体物や I C T 機器を用いて視覚的に捉えられるようにする。	学ほとんどの児童がキーワードに着目し、加法か減法かを判断することができるようになったが、文意から計算方法を考えるような問題にあたると、正答率が下がってしまう。文章を正しく読み取り、立式することに課題があるため、意味をしっかりと理解させる指導や具体物や I C T を活用し視覚的に理解させていく。	
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組（4 月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	学文章を書くことに対して意欲的である。 学正しく漢字を書くことに課題が見られる。 学相手の意見を聞いてうなずいたり、自分の意見を伝えたりする活動に意欲的に取り組むが、聞いた内容を復唱することはできない児童がいる。	・正しく漢字を書くことに課題が見られる。 ・「いつ」と聞かれているのに場所のことを答えたり、「なぜ」という問いに「はい・いいえ」で解答したりするなど、質問の意図を適切に読み取り、答える力が身に付いていない。	・日常的に漢字学習を行ったり漢字を宿題に課したりすることで、理解を着実にさせる。 ・5W1H を意識して質問したり答えたりできるよう、スピーチの取組を充実させ、指導する。 ・共通、相違、事柄の順序などの情報と情報の関係を視点として読み取らせるようにする。 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けさせて音読させる。	・漢字の細かい部分を正しく書けない児童が多い。授業中に、漢字の書き間違いやすいポイントを指導する。 ・朝の時間にスピーチの取組を行っている。5W1H を意識して質問したり答えたりできるようになってきた。 ・教科書に線を引きながら読み取りをすすめることで、児童が語のまとまりを意識したり、視点をもちながら読み取りを進めたりするようになってきた。	学日常的に漢字学習を行ったり小テストを実施したりしたことで、書き順に気を付けて漢字を書く児童が増えたが、似たような漢字を書いて誤答する児童も多かった。似たような文字は、併記し繰り返し指導していく。 調5W1H を意識して質問したり答えたりできるようになってきたが、話を聞き取る力については、区及び全国の平均正答率を下回った。接続詞を用いて話したり、話の要点を聞き取ったりできるように、教科書を拡大する等、I C T を活用して全体で確認しながら指導を続けていく。 調学力調査の結果が、区及び全国の平均正答率と比べて全般的に低かった。そのため、学習意欲を高めたり、読む力をつけたりする必要がある。音読の方法のバリエーションを増やしたり、教科書の大事なところに線を引いて読む習慣を付けさせたりする等、指導の改善・工夫を進める。

	算数	学 繰り上がりのある足し算を正しく解く力が身に付いている。 学 繰り下がりのある引き算を正しく解くことに課題が見られる。 学 文章問題を読んで正しく立式することのできる児童は多いが、適切な単位を用いる際に「6びき」「4ぼん」といった解答が見られるため、国語の学習と連携させて指導する必要がある。	・繰り下がりのある引き算を正しく解くことに課題が見られる。 ・時計を正確に読むことに苦手意識をもっている児童が多い。 ・長さ比べ、広さ比べ、かさ比べの際に、任意の同じ道具を使って比較すると良いということが理解できず、正しく比べられない児童が多い。	・算数の学習の始めに、計算問題に取り組む時間を設けることで、理解を着実にさせる。 ・毎日の学校生活を通して、児童が時計を見て行動する機会を多く設ける。 ・授業を通して、具体物を使った算数的活動を取り入れる。	・算数の学習の始めに、計算問題に取り組む時間を設けている。継続することで、計算を早く解けるようにしていく。 ・児童が時計を見て行動する機会を多く設けたことで、時計を読めるようになってきた。 ・授業中に、物差しを使って、いろいろな物の長さを測る活動を取り入れた。同じ道具を使って、複数の物を比較する経験ができた。引き続き、具体物を使った算数的活動を取り入れる。	学 算数の学習の始めに計算問題に取り組む時間を設けたことで、計算問題を早く解けるようになってきたが、個人差も大きい。個に応じた支援を続けていく。 学 時計を見て時刻が分かるようになってきたが、かかった時間を求める問題に苦手意識をもつ児童が多い。日常生活での確認を続けながら、学習の中でも、時間に関する問題の復習を取り入れていく。 調 長さについての問題の正答率が、区及び全国を下回った。指や手で長さを表すような学習を取り入れることで、児童が体感的に理解できるようにしたり、長さに関する問題の復習を取り入れたりしていく。 調 学力調査の結果が、区及び全国の平均正答率と比べて全般的に低かった。そのため、学習意欲を高めたり、計算の力を付けたりする必要がある。教室に算数の教具を置いて児童が慣れ親しめるようにしたり、学習の始めに計算問題に取り組む時間を充実させる等、指導の改善・工夫を進める。
3	国語	調 すらすらと文章を読むことができる児童がいる一方で、たどたどしい読み方になってしまったり、言葉の意味を理解できていなかったりする児童がいる。 調 習った字を使うことには意欲的だが、同じ読み方の別な漢字と混同してしまう様子が見られる。 学 学習への関心・意欲・態度は高く、難しいと感じても諦めずに最後まで取り組もうとする児童が多い。 学 作文については一生懸命に取り組む児童が多い。しかし、まとまりを意識して書くことができず、思い付くままに書いてしまい読み手に意図が伝わらない作文になってしまう児童が少なくない。	・語のまとまりを意識して読むことに課題のある児童がいる。 ・既習の漢字と同じ読み方の他の字と間違えてしまう。 ・はじめ・中・終わりの構成を考えながら書くことや、読み手に伝わりやすくするために順番に気を付けて書くことに課題が見られる。	・文章全体の構成や内容の大体を意識させ、音読させる。 ・詩や物語などを読み内容を説明したり考えたことを伝え合ったりする活動を設定し、語や文のまとまりを理解できるようにする。 ・国語辞書を活用することで、より多くの語彙の獲得を目指す。また、作文等の書く単元において、分からない漢字は辞書を使って自ら調べる習慣を身に付けさせる。 ・I C Tを活用し、資料について他の児童に伝える活動を多く取り入れることで、相手に分かりやすく伝える力を養う。	・詩や物語文の音読に毎日取り組ませることで、言葉のまとまりを意識しながら文章を読む力が身に付いてきている。 ・国語辞典を活用し、漢字を正しく書くよう指導したが、全体の6割の児童が既習漢字の字形を正しく覚えることができていない。毎日漢字の復習をする時間を設けることで、着実に覚えることができるようにする。 ・I C T機器を活用しながら話し合いを行う機会を設けたことで、互いの意見をもとに自分の考えを深めることができている。	調 文章を読む力については、全国の平均正答率を上回っている。引き続き音読の宿題を毎日課したり、場面の背景や登場人物の気持ちの変化を読み取らせたりすることで、文章から内容を正しく読み取ることができるようにする。 調 新出漢字の復習を繰り返した結果、漢字を正しく書く力が身に付き、区及び全国の平均正答率を上回った。 学 I C T機器を使って資料を提示したり、発表する機会を設けたりしたことで、聞き手に分かりやすく伝えようとする意識が育ってきている。 学 作文を書く練習をしてきたことで、苦手意識は薄れている。今後も引き続き自分の考えを書く時間を確保するとよい。
	算数	調 関心・意欲・態度は高い。しかし、1月の調査では時間内に最後の問題までたどり着くことができなかった児童が見られた。 調 時刻と時間を問う問題については、普段から時計を見て行動していることで、読み方が身に付いている児童が多い。しかし、30分前や1時間後を答えるときには、支援を必要とする児童も多い。 学 学習内容の理解には個人差がある。新しい単位と既習の単位とが混同されてしまったり、単位についての量感が曖昧になっていたりする児童がいる。 学 単元の終わりには理解していた学習内容でも、時間が経つことで解き方が曖昧になり、支援を必要とする児童がいる。	・問題に答えるとき、分からない問題でずっと考え続けてしまい時間が無くなってしまう児童がいる。 ・時間を聞いているのか時刻を聞いているのか、どの時刻から30分前なのかを正しく読み取ることに課題が見られる。 ・単位の量感が曖昧である。また、長さを表す単位であるのか、かさを表す単位であるのかが混同している児童が見られる。 ・単元の終わりに理解していても、時間が経つと理解が曖昧になる児童がいる。	・I C T機器を活用してタイマーを映し出すことで、終わりの時間を意識して、時間内に効率よく問題を解く力を高めさせる。 ・毎日、計算・時計・文章題・単位等の復習プリントを宿題に課すことで、理解を着実にさせる。 ・授業の中で具体物等を活用することで、正しく量感を捉えたり、大小を比較したりすることができるようにする。 ・習熟度別少人数形式での授業において、児童の実態に即した授業展開を行うことで、個々の力の伸長を図る。	・毎時間の始めに計算問題に取り組む時間を設けたことで、四則計算の正確さとスピードが上がっている。また、タイムを縮めようと努力するようになっている。 ・学んだことを復習するプリントを取り入れることで、新しい学習に入るときに既習事項を生かすことができるようになってきた。 ・具体物を取り入れる機会を設けることで、量感を捉えられるようになっている。 ・習熟度別指導の授業を通して、きめ細かくそれぞれの児童の課題や成長を見取り、個に応じた対応ができている。	調 ベーシックタイムや家庭学習で毎日異なる計算問題に取り組ませてきた結果、「数と計算」の分野では、全国の平均正答率を上回った。 調 「量と測定」の分野において、全国の平均正答率を上回った。日々の家庭学習にコンパスによる作図や、量に関する問題を繰り返し出題することで、基礎的な内容の理解定着を図る。 学 習熟度別指導により計算に苦手意識をもっている児童も、意欲的に取り組む習慣が身に付いている。 学 習熟度別指導においては、児童の実態に応じて発展的な内容に取り組んだり、復習の時間を確保したりしていく。

4	国語	学3年当初より、作文を書くことに対する苦手意識が低くなってきて、取りかかりが早くなってきた。また、読み返す習慣が付いてきた。 学伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えようとする意識が見られる。 調物語文はおおむね理解ができるようになってきたが、説明文については理解が難しい様子が見られる。	・作文の構成についての理解が不十分である児童が多い。読み返しても間違いに気付かず、文体が統一されていなかったり、口語を書き起こしたような書き方をしたりすることがある。 ・説明文の構成についての理解が不十分である児童が多い。そのため、自分で説明文を書く際にも、どのように書けば良いのか分からない様子が見られる。	・見直しや読み直しを個人と集団で行い、間違いに気付きやすくする。 ・構成メモを用いて、段落や順序を意識して文章を書けるようにする。 ・段落相互の関係に着目させ、考えとその理由となる事柄との関係について叙述から理解させるようにする。	・新聞や本の紹介を書く活動では、互いの文を見合う時間を設けたことで、間違いに気付く力が身に付いてきた。 ・文の構成「始め」「中」「終わり」について考えて書くことができるようになってきた。しかし、「中」を書く中での段落については、意識はあるがまだ不十分であり、引き続き構成メモ等を活用して指導していく。 ・「アップとルーズで伝える」の単元では、内容から関係について考えることができた。	調文を書くことへの苦手意識が減り、書くことに意欲的に取り組む児童が増えたが、学力調査の意見文を書くにおいて目標値を下回っている。日常から文を書くように、日記の宿題や行事の振り返りを増やし、書くことに慣れ親しむ指導を充実する。 学相手の立場を考えて話すことや朝のスピーチなどを続けたことで、聞き手に分かりやすく伝える力が育っている。聞く意識を高めるために、聞く観点を伝えたり、聞く必然性があつたりする場を増やしていく。 調説明文の構成を理解できるように「始め」「中」「終わり」を意識した指導を続けた。区学力調査において目標値をこえることができた。継続することでさらに書く力を高めていく。
	算数	調計算問題に集中して取り組んでいる。間違いも少ない。 学図形の特性についての理解には個人差が見られる。 学文章題の立式についての理解には個人差が見られる。	・円や三角形などの特性についての理解が十分でないので、図をかくときにどのようにかけば良いのか分からない様子が見られる。 ・文章題を読み、どの式が適切か考えずに立式し問題を解くことが多い。	・ICT 機器や具体物を用いることで図形に対する視覚的認知を高める。 ・立式の理由を説明したり、それを聞いた児童が説明したりする場を設ける。 ・文章を要約し、四則演算が分かるようにする。	・ICT 機器を活用し視覚的に作図を説明したことや、個々の児童へのノート指導により、定規を使って丁寧に作図する姿が増えた。さらに、個別の指導を充実させていく。 ・児童相互に説明する機会を設けたことで、考え方を述べる機会が増え、立式する際の間違いに気付く力が身に付いてきた。 ・文章問題を要約してノートに書くことで、演算決定の言葉やキーワードが分かり、四則演算の間違いが少しずつ減ってきた。	調チャレンジタイムや繰り返し問題に取り組むことで、基礎問題において目標値を大きく上回った。 調ICTの活用や個別指導の充実によって、図形の問題においても全国の平均正答率を上回った。 学文章を全体指導の中で要約することの続け、個人でも要約する力が身に付いた。そのことで、文章問題の立式は、四則演算の決定ができるようになった。 調数学的な考え方や関心・意欲を高めるために、実生活の経験や体験を想起させるような具体物を活用する等、授業改善を図る。
5	国語	学作文に対する抵抗感や誤字脱字が減ってきている。特に文章例の型を示すことでイメージをもちやすくなり、意欲をもって取り組もうとする。 学分からない漢字や言葉を辞書で調べる習慣が身に付いていない。教えてもらうことに慣れており、辞書の使い方が分かっていない。 調決められた時間の中で問題を解こうとする習慣がない。そのため、分かっているのに時間がないために問題を解ききれないということが多々ある。	・作文に対する意欲はあるが語彙力が低く、自分の気持ちや考えを表現できなかつたり、主述関係が成り立っていないかつたりする。 ・辞書を活用することを面倒と感じていたり、使い方がよく分からなかつたりするため、自分から調べようとする習慣がない。 ・授業では児童の実態に応じて時間を延長したりする場面が多く、決められた時間内で課題に取り組もうとする意識が低い。	・国語に限らず、自分の考えを書く時間を意識的に設定し、文章を書くことに慣れさせ、どのような書き方があるのか、具体例を示すようにする。 ・辞書の使い方を確認し、ゲームの要素を取り入れながら熟語の意味を辞書で調べる習慣を付ける。 ・課題に取り組むときに、時間を決めて行う。残りの時間を伝えるようにし、少しずつ時間の中でやり切る習慣を付ける。児童の様子をよく見て、必要があれば途中で止めて全体にアドバイスをして課題への理解を深められるようにする。	・個人で考える時間をとり、書く内容の具体例を示すようにしたことで、9割の児童が自力で考えを書けるようになった。 ・授業時間内に辞書を活用できていないので、今後の課題として使う時間を増やす。 ・課題の終了時間を伝えたりホワイトボードに書いたりすることで児童は時間を意識し、見通しをもって取り組むようになってきている。今後も継続し、実際に時間内に課題をやり切れる児童を増やしていく。	学・調さらに書く力を高めるために、構成メモを活用してまとまりを意識した文章を書く指導が必要である。 学新出語句を学ぶ際に言葉の意味を確認したり、辞書で調べたりすることを通して、語彙量が増えたり辞書の引き方が定着してきた。 調問題を解く際に、分かる問題から解くよう声掛けをしたことで、多くの問題に取り組む児童が増え、正答率が高まった。特に漢字の読み書きについては、全国や区の平均値を上回った。
	算数	学計算問題に対する意欲がとても高い。特に暗算が可能なかけ算とわり算に対する意欲が高い。 調大きい数や概数、道具を使った図形の問題に対する苦手意識が強い。	・速く計算することに気がいつてしまい、正確に解くことに課題がある。また、繰り下がりのあるひき算になると時間がかかる。 ・位取りが理解できておらず、大きい数になったり小数になったりすると混乱してしまう。その混乱が四捨五入の苦手意識にもつながっている。 ・三角定規やコンパス、分度器といった道具の使い方が定着しておらず、毎回使い方を教え直す必要がある。	・タイムチャレンジを継続して計算力の定着を図る。また、解ききれなかった場合も答え合わせの時に「パス」をするのではなく、その場で計算して解答させるようにする。 ・カードなど具体物を使って授業を行い、位取りを理解させる。 ・道具を使う機会を意図的に増やして、使い慣れるようにする。	・タイムチャレンジを継続することで、計算力が定着するだけでなく意欲も高まってきている。今後は正確に計算するように見直しの声掛けを増やしていく。 ・位取りに限らず、具体物を使って授業を行うことで学習内容を理解できる児童が増えてきている。今後も児童の実態に沿った教材作りをしていく。 ・プリントやドリルを活用することで、図形の学習を中心にコンパスや分度器、三角定規といった道具を使う機会を今後も増やしていく。	学・調日常的にタイムチャレンジに取り組んできたことが、計算問題を解く際の素早さや正確さにつながった。また、見直しを行ったり正確さに目を向けたりできるよう声掛けを行ったことも、効果的であった。そのため、数と計算の問題についての正答率は、全国や区の平均値を上回った。 調図形の問題に対する苦手意識は減ったが、体積を求める問題における正答率は、全国や区の平均を下回った。ICTによる全体指導に加えて、実態に応じて具体物を手元に置き、実感して理解できるよう取り組む。

6	国語	調文章を読み取る力が目標値を大きく上回っている。 学自分の考えや思いを文章にすることができているが、分かりやすくまとめる力に課題がある。	・文の構成の理解が不十分である児童が多い。文末表現が一致しないこと、主述の関係、段落相互の関係をつかむことが難しい、助詞を正しく使えないなどの課題がある。	・構成メモを活用することで、相手に伝わりやすい構成と段落を意識した文章を書くことができるようにする。また、事実と感想、意見などの関係を確認しながら文章を読むことで、段落のつながりを掴めるようにする。 ・文末表現や主述の関係などを推敲のポイントとして指導し、自ら間違えに気付くことができるようにする。 ・友達同士で作文を読み合う時間を設け、お互いのよさについて伝え合う活動を多く取り入れることで、書く活動に対する苦手意識を減らす。	・教科書で学んだことをもとに構成メモを書かせることで段落相互の関係を考えながら文章を書けるようになってきた。 ・推敲するポイントを指導したことで、それを意識して読み返すようになってきており、誤字・脱字が減っている。 ・互いの文章を読み合う活動を設けたことで、よさを伝え合ったり、アドバイスをし合ったりする姿が見られた。今後も続けていくことで、書くことへの苦手意識をさらに減らしていく。	調自力解決ができるよう文章の読み取り方や表現の仕方を継続して指導したことで、読むこと、意見文を書くことにおいて、区の学力調査の目標値を大きく上回ることができた。 学書くことに対しての苦手意識を軽減することができた。自分の書いたものを推敲するときのポイントを指導したり、児童がお互いの文章を読み合ったりアドバイスし合う活動を取り入れたことが有効であったので、今後も続けていく。書く力を高めるために、想像したことや経験したことを日記に書くなど、書く経験を増やすことが必要である。またその中で、繰り返し文の構成についての指導が必要である。
	算数	調基本的な学力があり、基礎・基本は身に付いている。 学図形についての技能には課題が見られる児童もいる。図形の性質を、具体物を使って理解したり、いろいろな描き方を児童同士で伝え合ったりして、理解を深めていく。	・基本的な知識を使った発展問題が全体的に苦手な傾向がある。 ・図形をイメージして、展開図に表したり、体積や長さを求めたりすることに課題が見られる。	・理解が遅い、不足している児童に関して、個別に指導するとともに、毎日の宿題で、既習事項の内容を取り入れた問題を繰り返し出すことで定着を図る。 ・授業で基礎・基本をもとにして解く応用問題を継続的に取り組ませ、数学的思考力を培う。 ・量感をもたせるために、実測・実体験をさせる活動を充実させていく。また、ICT 機器を活用し、図形をより深く理解できるようにしていく。	・毎日の宿題において、今まで習った問題に繰り返し取り組んだことで理解が深まっている。全国学力・学習状況調査では、全領域・全観点で全国及び都の平均点を上回っている。 ・数学的思考力を培うため、少人数に分かれての授業では、各グループの理解度に応じた活動や課題に取り組ませていく。 ・図形を扱う単元では、ICT 機器を使用することで、理解を深めることができた。今後効果的に機器を使用するとともに、児童による活用も進めていく。	調宿題での繰り返しの学習により、基礎的な学力が身に付き、区の学力調査においては基礎の部分での正答率が目標値を大きく上回った。 調考えを伝え合う活動を多く取り入れたことで、考えをより深めることにつながり、活用する力が高まった。また、児童が ICT 機器を使って発表したり、作業を見せたりする活動を取り入れたことで、視覚的にも理解を深めることができ、区の学力調査においては活用の部分での正答率が目標値を上回った。 学作図についての技能には個人差が見られる。図形の性質を、身近な物を使って説明をし合ったり、その性質を利用した図形のかき方を児童同士で伝え合ったりするなど、理解を深める指導が必要である。 学学習熟度が高いコースの児童には発展問題を解かせたり、その解法についてお互いに意見交流をしたりするなどして、活用力を高めていく。
音楽		学楽譜が読める、リコーダーや鍵盤の運指を理解している、など基礎的な能力が身につけている児童は多いが、ただ音をそのまま演奏しているのみでどのように表現したいかという思いや意図をもっている児童は少ない。 学歌唱では怒鳴って歌ってしまう児童、歌うことに消極的な児童がいる。	・思いや意図をもって表現しようとする児童が少ない。 ・怒鳴って歌ってしまう児童、歌うことに抵抗を感じている児童が少なくない。	・楽譜をよく読み、根拠となる要素を探し、どのように表現したいかという意欲に繋がれるようにする。 ・高い声が出にくい児童に対してはキーを下げて歌えたと自信をもたせることで少しずつ歌う意欲に繋げていく。怒鳴ってしまう児童に対しては高い声を出す楽しみを実感できるような教材を用意する。	・ICT 機器を活用し、学級全体で楽譜を読み共有する場面を多く設けた。楽譜を意識するようになり、表現に広がりが見られた。 ・『夢の世界を』や『赤い屋根の家』を今月の歌に設定し、全校で頭声発声に取り組んだ。頭声で出す声の美しさや歌うことの楽しさを実感することにつながった。引き続き教材選択の際にその視点をもつ。	・楽譜を読み、共有する場面を設けたことにより、強弱記号や音楽用語を意識する児童が増えてきた。なぜそこにその強弱記号があるのか、指示があるのか、作曲者の意図を読み、さらに表現が深まるように指導していく。 ・毎月の歌を設け練習をしてきたことで、全体的に歌うことへの意欲が高まってきた。来年度は音楽会があるので各学年の個性に応じた教材選択の視点を持ち、指導していく。
図工		学学習のための用具がそろわない児童がいる。 学豊かなイメージを持てる児童が多いが、中にはなかなかイメージが浮かばなかったり、イメージは持ててもどのように表したらよいか分からなかったりする児童がいる。	・学習道具を揃える習慣が身に付いていない児童がいる。 ・様々な体験が作品づくりに生かし切れていない児童がいる。	・学習に集中できるように、担任と密に連絡を取り、道具を揃えられるようにしていく。 ・表現の幅を広げるために様々な作例を示したり、いろいろな技法を習得させたりする。 ・自分で用具を選び、その用具の使い方や技法について自分で思い出せるように教室掲示の工夫をしていく ・子ども達が見通しを立てて取り組めるように、授業の流れがよく分かる板書にしていく。	・作例を提示するだけではなく ICT 機器を活用し、作る場面を見せた。作っている動きを見ることで発想をもてる児童が増えた。 ・用具の使い方をホワイトボードに掲示するとともに、授業の最初に「思い出タイム」を作ることで、作品作りがスムーズにできる児童が増えた。 ・授業の流れを板書しておくことによって、自分がどこをやっているのか、これから何をやればよいのか自分で確認して、見通しをもって作品作りをできる児童が増えた。 ・学習道具を忘れないために、担任と連携し、児童一人一人に考えさせるようにした。少しずつ学習準備ができるようになった。今後も継続していく。	学忘れ物を減らし、学習道具を揃えるためには、どのようにしたらよいか児童一人一人に考えさせるようにした。少しずつ学習準備ができるようになった。今後も継続していく。 学作り方や作例を見せる時に ICT 機器を通してホワイトボードに大きく見せたり、実物を通して美しさを見せたり、使い分けた。そのことが、児童のイメージを膨らませる助けとなっていた。今後も続けていく。 学作品作りの途中、他の児童の作品を鑑賞する時間を設けて意見交換を行い、良い点を自分の作品に取り入れていけるよう指導する。また、児童の作品を全体で見合ったり発表会をしたりして、良かった点や、おもしろかった点を共有しながら鑑賞していく。
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況 学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況 ※分量は2 ページ以上となってもよい。